

# 各国の取り組み事例を踏まえた

## パラリンピック発展モデルに関する研究

トップスポーツマネジメントコース  
5011A313-5 佐藤 真海

研究指導教員： 平田 竹男

### 【Ⅰ. 序論】

陸上競技選手としてパラリンピックに2大会に出場し、選手で構成する日本パラリンピアンズ協会の理事として普及発展に努める筆者の立場から感じてきた選手を取り巻く環境へ問題意識を持ってきた。具体的には、日本のメダル獲得競争における低迷、選手個々の経済的負担、オリンピックとの支援体制の違いなどがあげられる。2011年にスポーツ基本法が制定されたこと、また2020年の五輪招致という社会的背景からも、パラリンピックへの環境改善が急務ではないだろうかと感じた。

日本の課題を明らかにするためには、諸外国の取り組みや社会の中でのあり方を知る必要があると考えた。筆者は、2011年に「スポーツ基本計画への提言～パラリンピアン視点から」を作成したが、海外についての情報が乏しかった。以上の背景を踏まえ、本研究では、諸外国の取り組み事例を踏まえ、「パラリンピック発展モデル」への示唆を得ることを目的とする。

### 【Ⅱ. 研究手法】

上記の研究目的の達成に向け、  
(1)パラリンピックの動向  
文献調査、IPCへのインタビュー調査  
(2)諸外国及び(3)日本について  
文献調査及び選手へのインタビュー調査  
の3つの手法を取った。

#### ■調査対象国

アメリカ、イギリス、オーストラリア、ブラジル、カナダ、ドイツ、フランス、韓国、ノルウェー、スウェーデン、スイス、イラン、日本(13カ国)

#### ■インタビュー調査

IPC-4名、選手-海外6名、国内4名

なお、本研究は「トリプルミッション概念」(平田・中村 2006)を念頭において進めた。

### 【Ⅲ. 研究結果】

#### 1. パラリンピックの動向

##### ■成績

米、英、豪の強豪国に加え、BRICs 諸国の台頭

##### ■規模の拡大

①参加国・人数の増加、②露出の増加(アテネ大会から北京大会で3倍増加)、③IPCの収入の増加(IOCとIPCの統合やライセンスのビジネス的活用)

##### ■IPCの考える発展のための重要項目

①体系的な選手育成システム、②メディアの活用、③資金対策

#### 2. 各国の取り組み

諸外国の調査結果をトリプルミッション好循環の構成要素である強化・普及・資金・理念に分類し、好例を抽出した。

##### ■強化

##### 【強化拠点】

全ての国	ナショナルトレセンの利用可
アメリカ	大学
韓国	パラ・ナショナルトレセンの存在

### 【指導者育成】

フランス	スポーツ国家免許への導入
イギリス カナダ	ハイレベルな パラリンピックコーチの育成
オーストラリア	コーチ評価制度
韓国	「専任指導者」制度
ノルウェー	オリンピックコーチと同一

### 【組織】

アメリカ	オリンピック委員会(USOC)内部 にパラリンピック委員会を組織
オーストラリア	健常者の競技団体との統合
韓国	パラリンピックの所轄が スポーツ行政に移管

### ■普及

#### 【選手の発掘・育成】

オーストラリア ブラジル	タレント発掘事業
アメリカ イギリス ドイツ	育成制度 ボトムアップの育成(ドイツ)

#### 【メディア活用】

オーストラリア イギリス カナダ	TV 露出 SNS の積極的用
ブラジル	資金投資による露出拡大策

### ■資金対策

行政による支援	スポーツとして一体支援、一般社会への波及効果を踏まえた投資
企業による支援	① スポンサー(団体、選手) 独、英、米、豪の好例 ② 雇用による支援 ドイツ
国、企業、市民など多くの人の理解が必要	

### ■理念

アメリカ イギリス オーストラリア	スポーツ立国 次世代への継承
フランス ドイツ カナダ	強化+障害者の社会参加 の両立
ノルウェー スウェーデン	ノーマライゼーション 平等

### 3. 日本におけるパラリンピックの現状

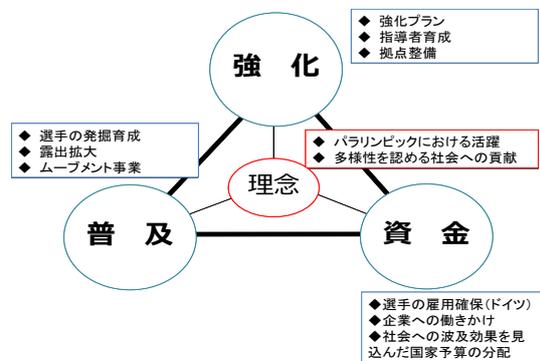
200～500 万円と、代表選手の年間自己負担平均 110.5 万円をはるかに上回る資金を上位選手がかけていた。より上位を目指すにはより多くの資金が必要であると言える。

この経済的問題に対し、プロ化、少額で複数のスポンサー獲得、実業団チーム、アスリートとしての契約社員形態など、自ら環境を変えることで競技を継続していた。また、拠点確保、資金対策、指導者の充実などについては問題意識を共有していた。

### 【IV. 考察】

諸外国では強化、普及、資金獲得における効果的な施策と理念の設定がなされていた。

#### 【パラリンピックのトリプルミッション】



今後一層拡大が期待されるパラリンピックの社会の中での効果的発展には、強化だけでなく裾野を含めた振興と、より多くの社会との接点の構築が重要であると考えられる。

#### 【パラリンピック発展モデル】

